千葉大学　第4回文学部講演会 2015年11月12日（木）配布資料

言語の起源：三浦先生の批判を受けて

東京大学　岡ノ谷一夫

　私の言語起源論が対象とするのは、地球における言語の創発に過ぎない。呼吸をすることでエネルギー代謝を可能にする動物のうち、有性生殖で、神経管から発達した脳を持つ脊椎動物が存在することを前提としている。これらの脊椎動物が音声でコミュニケーションするようになると、有性生殖を有効に進める手段として音声による歌が進化し、歌が生殖以外の社会的手段にも使われるようになる。ここに至ってから、言語がどう創発したのかを対象としているのであり、分節化され無限の意味を構成できる言語様体系が、宇宙でどのように生じるのかを扱っているのではない。

　また、私の言語起源論では、言語自体が適応的であることを前提としない。言語はいくつかの前適応の相互作用により創発したものであると私は考える。これら前適応のそれぞれは、自然淘汰と性淘汰を動力として進化してきたのであろう。しかし言語が創発してから後は、これに生物学的な淘汰がかかったとは考えていない。言語自体の変化は、信号が伝達される過程での伝達効率と、思考を伝える上での効率とから生ずる文化進化による。

言語に生物学的な淘汰がかからなかったと考える理由は、言語は「正直な信号」ではないからである。生物学的な信号であれば、「正直でない信号」は数世代で消滅する。なぜなら、信号としての価値がないからである。言語内容はどのような意味との対応も可能であるがゆえ、正直な信号ではない。言語運用は、知性や肺活量等の正直な信号である。また、言語と共に発せられる情動情報は正直な信号である。言語内容はこれらの素湯時期な信号に寄生して維持されている寄生信号なのである。

遠隔コミュニケーションを可能にする電子機器の発達により、言語内容が、言語運用な情動情報と分離されて伝達される状況が生じている。この状況が続くと、言語それ自体の信号価値が失われてゆくであろう。それが人類社会全体の相互信頼の喪失につながることで、言語は生物学的種としての人類を滅亡させる危険を持つ。その意味で、言語は非適応的な信号であるとも言えよう。また、言語のこの性質が、地球以外で言語を持つ文明が発見できていないこととも関連しよう。むしろ、惑星間飛行が可能になった文明は、他の言語文明に遭遇する時間を持たずに自滅するということであろうか。

非適応的かもしれない言語の進化について　　東京大学・三浦俊彦

■私の言語起源論が対象とするのは、地球における言語の創発に過ぎない。

地球は、観測者のいる環境（宇宙の中で非典型的な環境）の中では典型的な環境だと想定できる。言語が観測者性の必要十分条件だと仮定すると（ただし次項参照）、地球における言語の創発は、言語発生の典型的な事例だと想定できるだろう。

よって、研究対象が「地球における言語」というただ一つの事例であるとしても、言語の普遍的あり方の研究に直結すると考えられる。

■言語のない意識は可能である。　（言語は意識の必要条件ではない）

　ふるまいによって定義される「機能的意識」については同意できるが、主観的経験としての「現象的意識」はどうだろうか？　ここでは現象的意識を観測者性（観測選択条件）として理解する。生物史において、脊椎動物の中で言語を持つ個体（ヒト）は少数派である。「私」が観測者の中の少数派である事前確率は低い。よって、言語を持たぬ脊椎動物が観測者である可能性は低い、つまり現象的意識を持ちそうにはない、と結論できる。

■動物を訓練し、記憶や知覚の確実性について報告させることができる。（メタ認知）

ここで「メタ認知」とはいかなるものだろうか？　メタ認知のためには、認知への指示（認知の概念化）が必要か、それとも認知からの影響（認知の知覚）だけで十分だろうか。

■言語はいくつかの前適応の相互作用により創発したものであると私は考える。しかし言語が創発してから後は、これに生物学的な淘汰がかかったとは考えていない。

翼と違って創発後に適応的でなさそうなのに進化したということは、生物学的適応以外の何かがその根拠となっているのだろう。その根拠とは、観測選択効果かもしれない。

■言語自体の変化は、信号が伝達される過程での伝達効率と、思考を伝える上での効率とから生ずる文化進化による。

文化環境も自然環境の一種なので、言語の進化は不思議ではないが、正直でない信号として進化してきたことの理由は考察に値する（言語の「正直な信号」的側面、すなわち運用と情動情報は、言語特有の属性ではないため、考察から当面除外できる）。

　言語の不正直性は、無意味や虚偽に対する感受性を対抗進化させ、自意識を進化させたと言えそうだ。他方、自意識の昂進は言語の不正直性を高めそうである。強い自意識による概念遊戯や自己対象化と、不正直な言語使用とが相互作用する。このランナウェイを引き起こした根本原因は「脳の巨大化」なので、結局は「脳の急速な巨大化は適応だったのか、それとも単なる観測選択効果か？」という問いに帰着するのではなかろうか。